

# 牛久：学校周辺に見る自然

第35号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年10月23日発行

## ＜ 動物のすみか ～ ⑩ バッタのなかま ＞

9/27, 10/4にひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回はバッタ(バッタ目)のなかま。



イネの害 虫として知られるコバネイナゴ。佃煮で食べるのはこれ。



この日、最もよく見かけたのはコバネイナゴでしょう。イネの害 虫として知られますが他のイネ科の草の葉も食べ、農薬の使用などで付近の湿地や周辺の草むらなどに生活の中心を移しているところもあるようです。佃煮として食べられているのもこれです。この時期、おんぶして交尾しているのもよく見かけますが、上に乗っている小さいのがおすですね。コバネイナゴは羽が短めで腹端を越えないか、越えても少しです。よく似たハネナガイナゴというのがいますが、こちらは羽の長さが腹端よりずっと長いので区別できます。ただし並べてくらべればよく分かりますが、なれないとむずかしいでしょう。

コバネイナゴの交尾(2010.10.27 みずべ公園)。上に乗っている小さいのがおす。





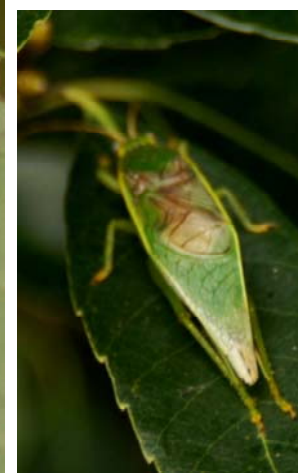
続いて、ヒシバツタ。上から見ると羽の形がひし形をしているので、この名がついたようです。体長6～11mmととても小さくて子どものバツタと思いがちですが、これです。ただし、羽が短いので飛ぶことはできず、ジャンプして移動します。地上に生えている藻類を食べて育つそうです。

羽の形がひし形の、とても小さなヒシバツタ。藻類を食べて育つ。



こげ茶色で頭に光沢があるエンマコオロギのめす。日本最大のコオロギで、昆虫の死がいや野菜くずなど食べて育つ。

こちらは、エンマコオロギ。こげ茶色で頭部に光沢があり、日本最大のコオロギです。昆虫の死がいや野菜くずなどを食べて育ちます。コロコロリーときれいな声で鳴いていたのはおすで、めすは鳴きません。写真は長い産卵管をもっていますので、めすですね。



最後に、樹上でうるさいくらいに鳴いていたアオマツムシ。ただし、背より高いところにいることも多く、葉や枝にまぎれて、近くで鳴いているのは分かっているも見つけるのはなかなかむずかしかったりします。

【理科支援員：宮内】

うるさいくらいに鳴くが(左)、葉や枝にまぎれて見つけにくいアオマツムシのおす。中国からの帰化種。